

豊後高田「昭和の町」づくり

大分県豊後高田商工会議所(豊後高田市)



店舗の外観を「昭和30年代」をテーマに修景するなど、昭和の街並みづくりに取り組んでいます。



賑やかで活気にあふれていた昭和30年代当時の商店街。この頃の元気を取り戻そう！と頑張っています。



広大な農業倉庫を整備した「昭和ロマン蔵」の中に、懐かしいおもちゃなどが所狭しと展示されています。

事例の概要

商店街が元気だった昭和30年代をテーマとして、商店街の街並み景観の整備をはじめとした各種事業の実施により、「生きた昭和の町」づくりに取り組んでいる。

お店に代々伝わり歴史を物語る「お宝」を「一店一

宝」として店頭に展示したり、そのお店の自慢の逸品を「一店一品」として販売するなどの取組みを行っている。

平成14年度に整備された昭和ロマン蔵には、平成15年度には21万5千人が訪れている。

評価のポイント

豊後高田市の商店街は、江戸時代から明治、大正そして昭和30年代にかけて、国東半島をはじめ、周辺を代表する商業地として栄えてきた。しかし、モータリゼーションの普及や近年における郊外型の大型店の進出、さらには過疎化の進行、後継者不足等により、「シャッター通り」と揶揄されるほど寂れきっていた。

このままでは商店街がなくなってしまうという危機感を感じた商工会議所や商店街そして市が町の個性を探し求める中で、「昭和」という時代を通して、改めて町を見直してみると、古くて、汚くて、不便だと思っていた既存商店街の街並みが、実は昭和の姿を丸ごととどめた「昭和の博物館」だということに気づくに至った。それから平成13年度より商店街街並み修景事業として、昭和30年代をコンセプトに、「昭和」の趣を持つ外観に整備するなどのハード事業、空き店舗をチャレンジショップやギャラリー等に活用する事業

を実施した。

さらに平成14年度には、「昭和の町」の拠点施設として、商店街に隣接した広大な古い農業倉庫を「昭和ロマン蔵」として整備する一方、その中に、日本一の駄菓子屋のおもちゃコレクションを展示した「駄菓子屋の夢博物館」を誘致した。

この結果、数年前まで寂れきっていた商店街に、現在では連日個人観光客や大型観光バスが押し寄せ、年間20万人以上もの観光客が訪れるといった、まさに奇跡と呼ぶにふさわしい程の賑わいを見せている。

このように、古くて不便だと思っていた既存商店街の街並みが、実は丸ごと「昭和の博物館」だったという貴重な地域資源として再認識しながらまちづくりを進め、商店街の賑わいを取り戻し、地域が活性化している点が評価された。

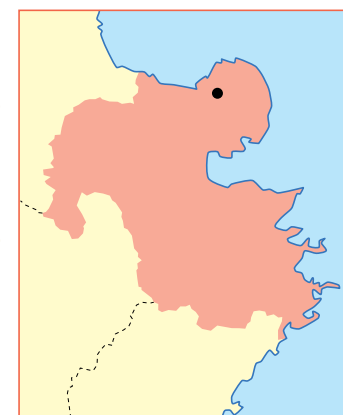


ボランティアガイドであるもんべ姿の「昭和の乙女」が、軽妙な語り口で町や店の歴史などを紹介。



懐かしの「ダイハツミゼット」を動く広告塔として復活。昭和の町をパレードしている様子。

大分県 豊後高田市



国勢調査人口

昭和35年	昭和45年	平成2年	平成7年	平成12年
28,280	22,866	20,086	19,131	18,506

増減率

H12/S35	H12/S45	H7/H2	H12/H7
△34.6	△19.1	△4.8	△3.3

高齢者・若年者比率(H12)

高齢者比率	28.6
若年者比率	14.3

交通のご案内

自動車	別府宇佐道路宇佐ICから国道387号、国道10号、国道213号経由25分
電車	JR日豊線宇佐駅からバス10分
飛行機	大分空港から自動車50分

団体連絡先

名称	豊後高田商工会議所
所在地	〒879-0617 大分県豊後高田市大字高田986-2
電話番号	0978-22-2412(総務課)
URL	http://www2.megax.ne.jp/buntaka